

ねぎぼうず便り

平成26年1月 新年号 Vol.13



学校法人

藍香学園

深谷大里看護専門学校



ケーススタディ発表会にて

学校長 大坪 公子

自分の壁を突き破りましょう

皆さま明るい新年をお迎えのことと思います。学生の皆様は勉強すること、自分を磨き高めること、看護師になる目的を達成することがなにより大切なことです。

皆様は努力することはするのですが、あるレベル以上はしない事も多いのです。粘り強くまじめに努力を続けなければなりません。「ここまでしかできない」といった固定観念を持っていると、壁を破り一線を越えて成功に至ることが出来ないことがあります。その壁をついに突き破り成功したということが自信になり、より粘り強い性格が形成され、さらに大きな成功へと導いてくれるのです。

自分の置かれた状況に不平不満の声を上げるばかりではいけません。自分で道を切り開くのです。心を閉じていると本当の恵みを見極めることが出来ないのです。常に謙虚になり、常に反省し、常に学ばなければなりません。

決して希望を失わないようにしましょう

することなすことすべてうまくゆかないこともあるものです。そういう時でも希望と明るさを持ち続けて下さい。私たちは決して苦痛や悩みから解放されることはありません。しかし最悪の時でさえも、明るさを失わず、明日に希望を持つように努力することはできるのです。人間として正しいことをしてゆけば、看護師の持つやさしい思いやりの心を持っていれば、きっと良い人生が開かれてゆきます。失望や、困難、試練の時があるでしょう。しかし、誠実な努力とひたむきな決意を持っていればきっと願いはかないます。安易な道は避けましょう。安易な道は、ゴールに導いてくれないのです。自分のことのみ考えるのか、それともお互いに思いやりを持って接するかによって、人生の道は大きな差が生まれてきます。仕事は精神的な満足を与えてくれます。生涯を通じて打ち込める仕事を持てるかどうかで人生の幸不幸が決まります。まず勉強して、働く意義を見つけて下さい。

ケーススタディ発表会

3年生によるケーススタディ発表会を昨年11月6、7日の2日間に渡って行いました。実習施設でお世話になった方々もお招きしてのこの発表会は、国家試験の受験とともに、3年間の当校での学習の集大成といえるでしょう。皆、真剣そのものの表情で発表をしました。



関わりの深さに感動したケーススタディ発表会

1年 新堀 友佳子

3年生のケーススタディの発表を聴かせていただき、改めて看護の難しさや厳しさ、やり甲斐を感じました。患者様の状態や行動からアセスメントをし未充足を見出し、それに対し解決策や援助をした結果など、根拠に基づいて記されており、患者様の立場に立ち考え何を必要としているのかを考えた関わりの深さにとても感動しました。患者様の気持ちに寄り添い理解しようとする事やご家族の方の気持ちも考えること、そして患者様に合った個別性のある援助をされたことが研究から読み取ることができ、改めて看護とは何かを考える機会をいただけたように思います。

今までに学んだ基礎看護学の大切さを再確認することができ、私たち1年生は今学習している事を一つひとつ確実に自分のものにし、患者様に合った必要な援助を提供できるよう、日々精進していきたいと思います。

秋の交流会

1年 佐藤 ゆかり

10月18日に秋の交流会がありました。今回は、春の交流会とは違い、企画者としての参加でした。初めての交流会係としての活動でわからないことだらけでしたが、2年生の先輩方が中心となり、交流会の進め方を1年生に教えていただきながら企画を進めてくださいました。

当日は、バランスゲームや玉入れなどを行いました。狭い中で身体を密着させながらバランスを取ることで、学年の距離感を縮めることができたのではないかと思います。お茶会では、実習の事や学習の仕方について教えていただき、とても良い時間になりました。また、3年生は国家試験に向けて、2年生、1年生は実習に向けての良い気分転換になったと思います。8月から準備を始め、2年生の交流会の先輩方も係として最後の交流会でしたが、無事に終わることができ、とても良かったです。後を受け継ぎ、楽しい交流会を作っていきたいと思います。



2年 柳瀬 友佳里

秋の交流会は、私達2年生の交流会委員が主体となって行う最後の行事でした。夏休みから1年生と共に企画や準備をし、試行錯誤しながらも無事に自分達の仕事を終える事ができ、ほっとしています。

今回は、運動会とお茶会を開催しました。運動会では、玉入れ、風船リレー、チームの全員が1つの輪の中に入る船出航を行い1年から3年までが一致団結しながら競技しました。皆が全力で取り組んでいる姿や楽しんでいる様子、体育館が笑顔であふれていたことから、リフレッシュの良い機会となり楽しい時間となったと思います。

お茶会では、1年生に基礎看護学実習の自分の体験談を話すことで初心を思いだし、また3年生から領域別実習の話聞き、これから1年間に渡る実習に向けての準備や心構えができました。

交流会を終えて、参加した学生から「楽しかった」や「面白かった」などの声を聞くことができ、頑張ってきてよかったと思えた交流会でした。御協力いただいた皆様に感謝します。

産業祭を終えて

2年 大越 天馬

11月3日、17回生43名は産業祭に参加しました。例年ならば福祉健康祭りに参加していましたが、台風で中止になってしまいました。その代りとして産業祭へ参加する機会をいただくことができました。地域の皆様との交流を深めるために、ハンドマッサージ、赤ちゃん抱っこ、ナースキャップ作りを企画しました。それぞれのチームに分かれ放課後や長期休みを利用し、全員が力を合わせて準備に取り組んできました。

産業祭当日には、クラスの団結を表わすマークを入れたデザインのポロシャツを着て参加しました。私はハンドマッサージを実施させていただき、表情を見ながら相手の気持ちを考えることの大切さを学ぶことができました。



赤ちゃん抱っこでは、子どもからお年寄りの方々に来ていただき、赤ちゃんにふれて頂く体験となりました。ナースキャップ作りでは子ども達がシールなどを使い、自分だけのオリジナルのナースキャップを楽しそうに作ってくれ、一緒に楽しい時間を過ごすことができました。今回産業祭で地域の方々と触れ合った経験を、今後の学習に生かしていきたいです。



©深谷市



例年、夏冬に献血に協力している当校ですが、献血サポーター参加団体として登録もされ、その結果、左下のロゴもポスター等で使用できるようになりました。より協力を励んでいきたいと思えます。



私たちは
献血推進キャンペーンを
応援しています。



深谷赤十字病院でキャンドルサービスに参加しました。



深谷大里看護専門学校 3年課程 選考日程

	社会人入試(第3回)	一般入試(第2回)
試験日	平成26年3月14日(金)	平成26年3月14日(金)
出願期間	平成26年2月7日(金)~3月10日(月)必着	平成26年2月7日(金)~3月10日(月)必着
合格発表	平成26年3月17日(月)	平成26年3月17日(月)



小児看護学実習を終えて

通信制 1回生 田原 里香

朝、外へ出ると金木犀が漂い風の匂いに季節が変わっていくのを感じる。去年の今頃、実習はまだまだ先の事だと思っていたが早いもので小児看護学実習を受ける時期となった。実習前に授業や事前学習で乳児期から思春期までの発達課題や遊びを通しての成長過程を学んだ。自分の子供達が幼い頃にこの知識があったら違った育て方が出来たかもしれないと、もう遅い反省をしながら学習をした。

実習当日は、自分の子供達が病気になると心配し、自分を責めて、つらい思いをした頃を思い出して少し気が重くなったが、経験のない分野への期待もあり複雑な気持ちで臨んだ。初日はNICUだった。クベースの中の小さな新生児。今から抜管するという。医者、看護師が『がんばるんだよ』と声をかけながら管抜する。ドキドキした。呼吸が安定した時、この子のお母さん、喜ぶな。早く来ないかなと思った。お母さんが来院し『あっ！ 管が抜けてる！ こんな顔してたんですね！ かわいい』とクベースに手を入れているのを見て嬉しかった。

しかし、2日目には母親との関係から摂食障害をおこしている子にも出会い悲しくなった。後日の授業で早期出産で産まれた我が子の姿を受け入れられず面会に来なくなる親もいると聞いた。また、核家族化が進んだ事やメディアからの情報が氾濫している事で、子供への接し方がわからない親も多いということも知った。親と子供がつながり合えるよう援助する事が小児看護学ではとても大切な事であると実感した。それが先生がおっしゃった次世代を担う子供への看護という意味なのかなと考えている。

2日間の短い期間の実習だったが、親と子のつながりを支援するためには、専門的な知識や技術が必要であると、改めて学ぶことができた。



第一回国試対策特別講義を終えて

通信制 2回生 上村 勇樹

学校へ入学してあっという間に半年以上が過ぎ、仕事に家庭、それに勉強と忙しくも充実した日々を過ごしております。国試はまだ先の話のような気がしており、いまひとつ緊張感の持てないまま講義に向かいました。

主な内容は国試のガイダンスと解剖生理学の講義でした。このガイダンスで国試の合格基準や不合格者の8割は必修問題で落ちていることなどを聞き、私ののんびり気持ちは改めさせられ、同時に不安と、でもやるしかないという気持ちが湧いてきました。解剖生理が苦手…どころではないと。

私ははっきり言って、解剖生理が苦手というより好きではない。なんといっても楽しくない。しかし、蜂谷先生の講義は実に解りやすく、退屈しない内容でした。基礎的な事から、必ず覚えなければいけないこと、さらには模試の復習方法まで、また先生自身の体験話などもあり、いつになく真剣に講義に入り込むことができました。蜂谷先生は図を描くことが多く、その方が覚えやすいということでしたが、それを実感したのはつい先日のことです。ノートを開いたときに、この図はあの話の時の図だったなというようにすぐに思い出すことができたのです。そんなこともあり、私にとって今回の講義はとても有意義なものであったと感じられました。

国試まであと1年ちょっと。この時間をどう使うのかも自分次第であるなら漫然と過ごすことなく、講義で学んだことを無駄にしないよう、日々学習に励んでいきたいと思えます。

編集後記：早いもので1月もう終わり、1年の十二分の一が過ぎ去ろうとしています。時間を有効に使わなければと感じます。(村井)

ねぎぼうず便り新年号 平成26年1月30日発行 発行元:学 藍香学園 深谷大里看護専門学校 編集委員会 〒366-0019 埼玉県深谷市新戒 749-1
TEL:048-587-1370 (3年課程) 048-501-2730 (2年課程通信制)